二松学舎大学２１世紀ＣＯＥプログラム
「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」

公　開　講　演　会

演　題　「 簡野道明の愛媛時代および漢文教科書 」

講　師　　加 藤　国 安　教授
　　(愛媛大学教育学部)

日　時　　平成１８年１２月７日（木）１８：２０～１９：３０

会　場　　九段校舎　７階　７０２　教室

入場料　　無料

申　込　　前日までに必要事項（氏名・学年・所属）を
　　電話・ＦＡＸ・電子メールまたは申込書にて申込

申込先　　ＣＯＥ事務局
　　内　線　２２３１
　　電　話　３２６１－３５３５
　　ＦＡＸ　３２６１－３５３６
　　電子アドレス　coejimu@nishogakusha-u.ac.jp

「簡野道明の愛媛時代および漢文教科書」(要旨)

簡野道明(慶応元年～昭和 13 年　1865～1938)は、漢和辞典『字源』(大正 12 年刊)の著者として知られる。それまではあまりよい漢和辞典はなかったから、『字源』の刊行により、日本人は漢文を国民的教養文化として受容することになった。『字源』の登場により、当時、使用されていた漢文教科書に掲載される語彙なら、たちどころに意味が分かるようになったのである。

道明は、その漢文教科書も編集。当時、さまざまな漢文教科書が編集・刊行されたが、今も使用され続けているのは簡野道明ただ一人である。それは彼が漢文教科書のパイオニアとして活躍し、また長きにわたってこの方面の第一人者だったことによる。

その道明とは、どんな人物だったのか。これまであまり知られることはなかった。今回、とくに青少年期の 23 年間を過ごした愛媛時代を実地調査し、多くの手がかりを得ることができた。

1. 父・簡野の出自(新潟県『笹神村史』の調査、監修者新潟大学教授・小林昌二氏、および道明の令孫高道氏―東京の蒲田保育専門学校長―への取材)
2. 義任の教育―字義こそ大事→のちの『字源』に
3. 廃藩置県後の小学校で学ぶ→師・吉田藩儒兵藤文斎とは(宇和島市吉田町調査)
4. ふるさと吉田の風景―蒲田の燕子花、枇杷(吉田町調査)
5. 山間の僻地(西予市野村町白髭)での教師生活―蛍雪の功(白髭調査)→西予市文化財保護委員と共同で小学校跡地と道明の旧居跡地の確認
6. .愛媛県郡小屋村(現在の西予市野村町小松)の先にある(1961 年、愛媛県天然記念物指定の鍾乳洞　総延長約 550m)の探検→現地調査、その探勝癖。
7. 卯之町の小学校(開明学校―国の重要文化財)で教師。→現地調査の結果、当時の出勤簿や職印台帳を発見。その勤務ぶり。
8. 小学校(今の愛媛県大洲市)の校長に就任(26 歳 在任 1 年 11 ヶ月)→現地調査。当時の勤簿や職印台帳を再発見。その勤務ぶり。
9. 同校の学籍簿も新発見。その新婚時代と妻。
10. 彼の愛媛時代は、のちの彼の漢文教科書の編集にどんな影響を与えたのだろうか。「初等漢文読本」(道明最初の教科書　明治 32　35 歳)、「高等女子漢文読本」(日本最初の女子向け教科書　明治 33)→「中等漢文読本」(明治 34)の刊行。これが漢文教科書の決定版「新編漢文読本」(明治 44)のもとに。